

第 12 号

平成 28 年 5 月 30 日(月)

教育情報紙

発行：島根県教育委員会
(教育指導課)

TEL：0852-22-5421

Mail：shidou@pref.shimane.lg.jp

「学ぶこと、生きること」

島根県教育委員会教育長

鴨 木 朗



私は、3月22日から教育長を務めることになりました。当時、前職の地域振興部長としてJR三線線問題に奔走しているさなかの予期しない人事でしたので、戸惑いも感じましたが、重大な職責から逃げることなく、誠実に仕事をしていきたいと思っています。

私は、教育行政の「原点」を大切にしたいと思います。

一つは、そもそも教育委員会は教育現場を支えるために存在しているということ。もう一つは、我が国は70年前、地方の教育行政に「レイマンコントロール」の仕組みを採用したということ。「レイマン」すなわち「市民感覚を持った良識ある大人」である教育委員が、合議によって教育の大きな方向性を決定し、教育現場や教育委員会事務局の専門家集団（教職員）は、それを誠実に具現化する。この仕組みは、人間の知恵と経験の結晶のように感じられます。

ところで、私にとって教育委員会での勤務はこの10年間で5年目になります。“打率5割”です。その間、多くの指導主事・社会教育主事と一緒に仕事をしてきました。学校現場から慣れない行政の世界に移って、苦労を重ねながら必死で学校現場を支えようとしている教員を見てきた経験から、私は、島根の教職員の「志」の高さをとても頼もしく感じています。教育のプロとしての自負心と向上心を、掛け値なしに信じています。

さて、教育長として「学力」についてどう考えるか、寄稿してほしいとの依頼を受けました。

私の考えを率直に述べれば、「私は、教職員の皆さんを信頼しています。」このことに尽きます。その上で「言わずもがな」をあえて言うとしたら、二つのことをお願いしたいと思います。

一つは、子どもの「学ぶ意欲」と「学習習慣」との間の好循環がうまく回り出すように、一人ひとりの子どもをよく見てもらいたいと思います。この二者は「鶏と卵」の関係にあると思います。どちらを先行させたほうがよいのか、個性や家庭の事情などによって色々なアプローチがあるでしょう。

もう一つは、子どもが「学ぶこと」と「生きること」との関係を意識することができるように、長い目で子どもの成長に働きかけてもらいたいと思います。これは教育の根幹のようなものだと思います。子どもにとって与えられるものではなく自ら気づくことができるように、教育のプロとして力量を発揮してください。

これ以上は蛇足になります。私の申し上げたいことは尽きました。

「教育情報紙」について

この「教育情報紙」は、「第2期しまね教育ビジョン21」を受けて策定した「しまねの学力育成推進プラン」を具現化することを目的として毎月発行しています。これまでも「しまねの学力育成プランの3つの柱」「家庭学習の充実に向けて」「校内研修の活性化」などについて情報提供してきました。

今号では、「学力調査を活用したP D C Aサイクル確立のために」と「算数授業改善推進校事業」について掲載します。また、「家庭向け」として全国学力・学習状況調査B問題（以下「全国調査」という。）をとりあげ、保護者の皆さんに、今求められている学力について触れていただく機会を設けました。学校内だけでなく、家庭・地域でも子どもたちの学びを支える動きにつながっていけばと思います。

学力調査を活用したP D C Aサイクル確立のために

【全国調査では、何を評価しているか】

「学習指導要領で求められている学力」が身に付いているかどうか。

学校教育法第30条2項の規定

第2期しまね教育ビジョン21の表現

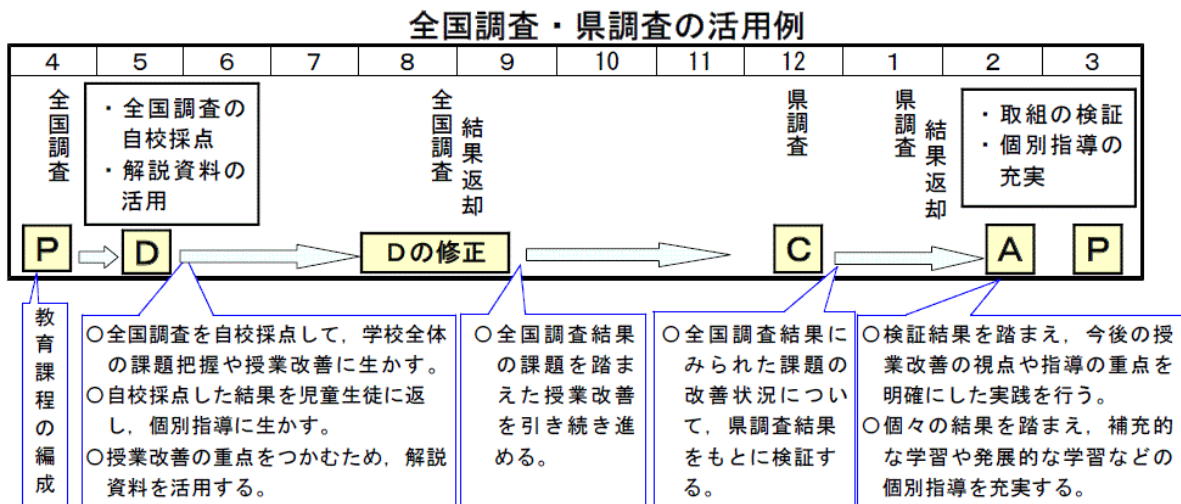
- | | | |
|--------------------|---|--------------------------------|
| ①基礎的な知識及び技能 | ➡ | 「学んだ力」（知識 技能） |
| ②思考力、判断力、表現力その他の能力 | ➡ | 「学んだ力」（思考力 判断力 表現力 問題発見・解決力など） |
| ③主体的に学習に取り組む態度 | ➡ | 「学ぶ力」（学習意欲 知的好奇心 学習計画力など） |

→「学習指導要領で求められている学力」は全ての児童生徒に身に付けさせなければならない。

限られた教科や学年で実施される全国調査で問われているのは、当該学年や担当教科だけの成果ではありません。小学校第6学年の問題であれば、小学校第1学年から第5学年までに学習した内容等が盛り込まれており、学校全体の取組の成果として全国調査の結果を受け止め、指導の改善のために活用していく必要があります。

【学力調査を活用したP D C Aサイクル】

全国調査の問題は、学習指導要領で求められている学力（思考力・判断力・表現力など）を評価するものであり、市販のテスト問題にはない質の高い問題が提供されています。全国調査をより有効に活用し、指導の改善を進めていくために、昨年度から島根県学力調査（以下「県調査」という。）を12月に実施することにしました。2つの学力調査の活用例を示したのが、次の図です。



算数授業改善推進校事業が始まりました

「しまねの学力育成推進プラン」では、「授業の質の向上」「家庭学習の充実」「学校マネジメントの強化」を3つの柱としています。このうち「授業の質の向上」については、具体的な取組として今年度から「算数授業改善推進校事業」が始まりました。全国調査で明らかになった課題の解決に向けて、まず算数の授業を切り口にして授業改善を進めていきます。県内8つの推進校で、実践研究の公開や教材開発を進め、その成果を普及していくことで、県全体の「小学校6年生で算数の勉強は好きだとする児童の割合」が70%となることを目標に事業を推進していきます。

算数授業改善推進校は次の8校です。近隣の学校の公開授業に、ぜひお出かけください。

- ・松江市立古江小学校
- ・安来市立社日小学校
- ・出雲市立大津小学校
- ・雲南市立掛合小学校
- ・浜田市立周布小学校
- ・江津市立津宮小学校
- ・益田市立吉田小学校
- ・隠岐の島町立磯小学校

具体的には、次のような授業づくりをイメージしています。

授業改善方針「子どもの声でつくる算数授業づくり」

1 「子どもの声でつくる算数授業」とは

- ◆子どもが「算数の勉強は好きだ」「問題を解いてみたい」と思う授業
- ◆お互いの考えを伝え合ったりして、それぞれの考えが深まっていく全員参加の授業
- ◆子どもが考えること、やりきることを楽しむ授業

2 授業づくりのポイント（子どもの活動を中心に考える）

ポイント1 考えること、やりきることを楽しむことができるようにする

- ◆一人で考え、考えたことを表現する活動
(例) 「これまで勉強したことが使えないかな。」「なかなか難しそうだけど、やってみたいな。」
「〇〇までできたけど…、みんなはどう考えたかな。」
- ◆それぞれの考えを図や式、表や言葉などを使って伝え合い、多様な見方や考え方を共有し、算数のよさに気付く活動
(例) 「私の考えを分かってもらって良かった。」「そういう考え方があるのか。」
「この式にはそういう意味があるんだ。」「図や表を使うと分かりやすいね。」
- ◆自分（たち）の学習をふり返り、学んだことやできるようになったことに気付く活動
(例) 「今度は〇〇を使って解くことができそうだ」「考えがたくさん出て楽しかった」
「〇〇さんの考えに驚いた」

ポイント2 子どもの活動に対して、適切なフィードバックを行う

- ◆考え表現したことを肯定的に評価し子どもに返す。
(例) 「なるほど。みんなはどう思う。」「いいね。おもしろい考えだね。」
- ◆やりきるよう努力した過程を肯定的に認め、一言添えて子どもに返す。
(例) 「〇〇までよくがんばったね。」「〇〇についても同じようにできないかな。」

【家庭向け】

「全国調査」の問題ってどんなもの

島根県教育委員会

毎年、実施している全国学力・学習状況調査（全国調査）の問題をご覧になったことがありますか。保護者の皆さんが経験された「テスト」とは目的も内容も大きく異なっています。

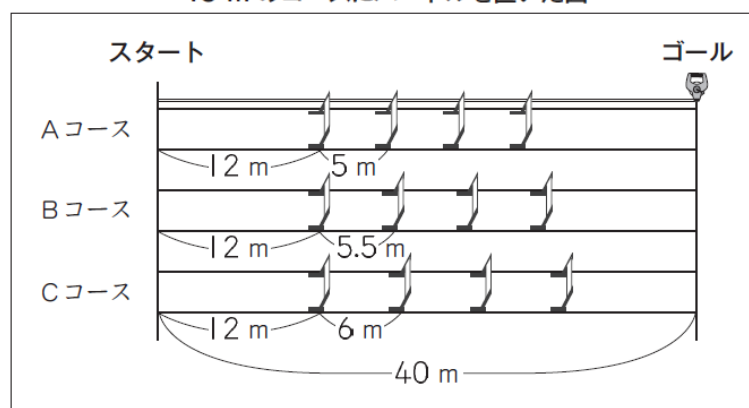
全国調査の目的は、順位を競うことではなく、学習指導要領で求められている学力がきちんと身に付いているかを確認することです。全国調査は、国語、算数・数学の2教科で、A問題とB問題に分けて実施されます。A問題は、身に付けておかなければ後の学習に影響を及ぼす内容や、実生活に不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい問題です。B問題は、知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価改善する力をためす問題です。

次の問題は、今年度の小学校6年生算数のB問題の一部です。単に計算をして数値を求めるのではなく、(3)のように、式や数値の意味を理解し説明する問題も出題されています。子どもたちが実際にどのような問題に取り組んでいるのかご覧ください。

体育の時間に、40 mハードル走を行います。

次の図のように、ハードルとハードルの間がそれぞれ、5 m、5.5 m、6 m になるようにハードルを4台ずつ置いて、40 mのコースにA、B、Cの3つのコースをつくります。

40 mのコースにハードルを置いた図



- (1) Aコースは、スタート地点から1台目のハードルまでが12 mで、ハードルとハードルの間が5 mです。

スタート地点に、巻き尺の「0 m」のところをあわせると、Aコースの4台目のハードルを置くのは、巻き尺の何 m のところになりますか。

求める式と答えを書きましょう。

次に、40 m 走のタイムをもとに、40 m ハードル走の目標のタイムを決めます。

40 m ハードル走の目標のタイムは、次の式で求めることにします。

40 m ハードル走の目標のタイムを求める式

$$40 \text{ m 走のタイム} + \underline{0.4 \text{ (秒)}} \times \text{ハードルの数} = \text{目標のタイム}$$



まなみ

この式で波線 (~~~~) の部分は、40 m ハードル走のときに増える分の時間ですね。

(2) まなみさんは、40 m 走のタイムが 8.1 秒でした。ハードルの数が 4 台のとき、まなみさんの目標のタイムは何秒になりますか。

求める式とまなみさんの目標のタイムを書きましょう。

まなみさんは、目標のタイムを達成することができました。そして、そのことを、先生に伝えました。



先生

目標のタイムを達成することができたなら、**40 m ハードル走の目標のタイムを求める式**を作り直しましょう。

40 m 走のタイムやハードルの数は変えずに、式の中の 0.4 を、例えば 0.3 に変えるとよいと思います。

もとの式

$$40 \text{ m 走のタイム} + \boxed{0.4} \text{ (秒)} \times \text{ハードルの数} = \text{目標のタイム}$$

↓

作り直した式

$$40 \text{ m 走のタイム} + \boxed{0.3} \text{ (秒)} \times \text{ハードルの数} = \text{目標のタイム}$$



まなみ

0.4 のところを 0.3 に変えるのですね。

式の中の 0.4 や 0.3 は、どのような時間を表しているのかな。

(3) 式の中の $\boxed{0.4}$ や $\boxed{0.3}$ は、どのような時間を表している数だと考えられますか。言葉や数を使って書きましょう。

(正答例)

(1) 式 $12 + 5 \times 3$

答え 27 m

(2) 式 $8.1 + 0.4 \times 4$

目標のタイム 9.7 秒

(3) 0.4 や 0.3 は、ハードル 1 台あたりに増える時間であると考えられます。